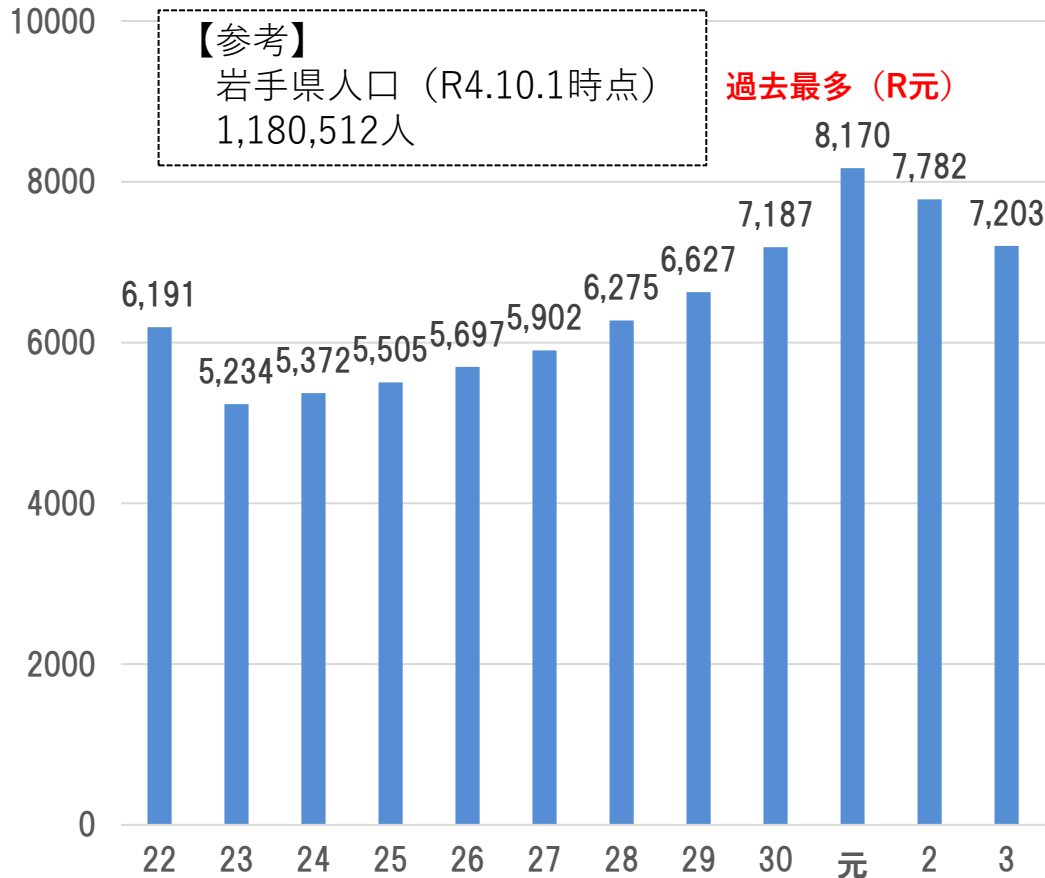


外国人県民の状況

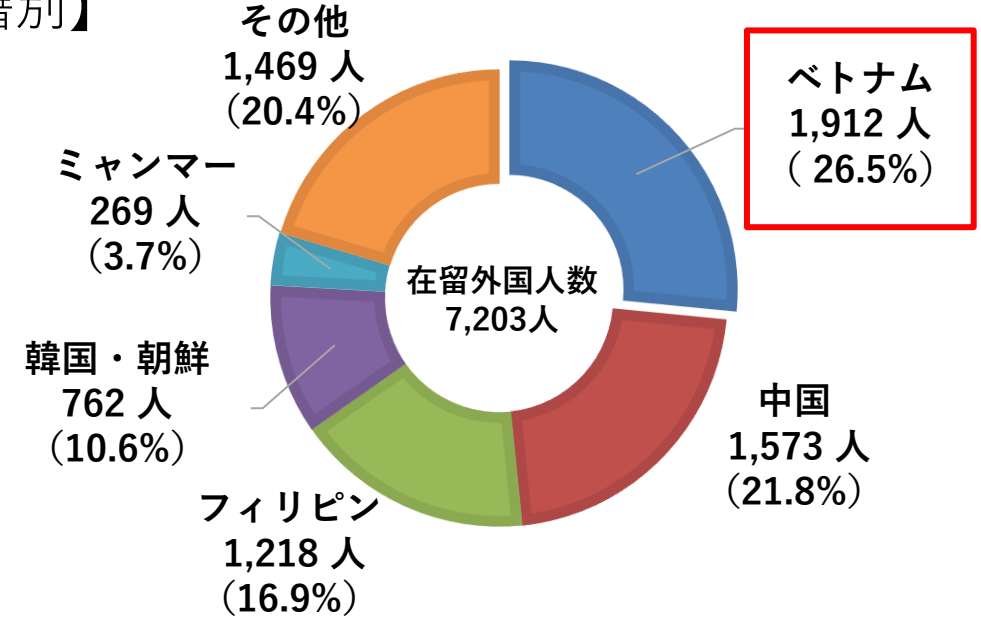
【在留外国人数の推移】



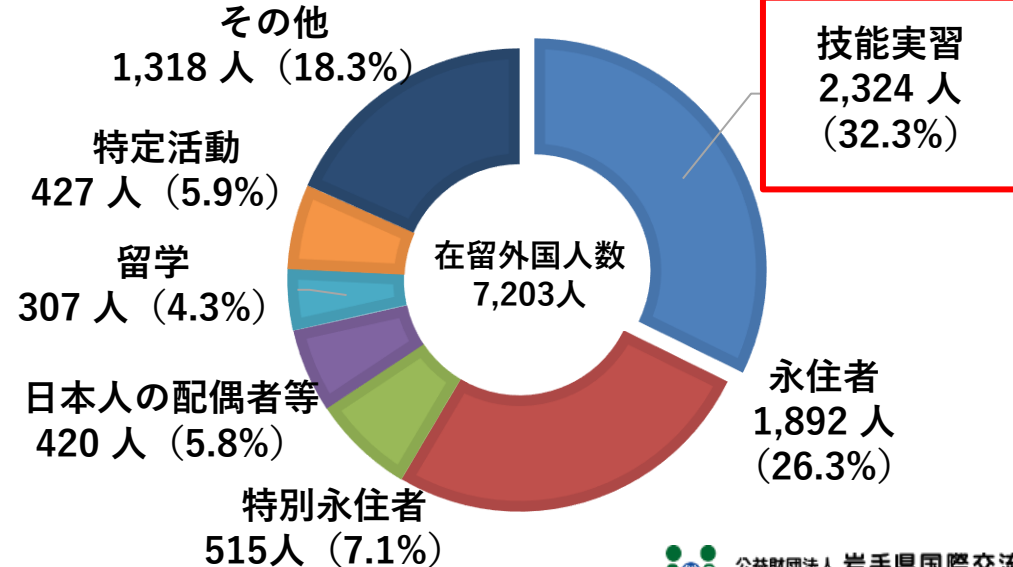
- 令和元年まで在留外国人数は増加傾向
(直近2年はコロナウイルス感染拡大の影響で減少)
- 国籍別ではベトナム、在留資格別では技能実習の在留外国人が多い

【出典】法務省「在留外国人統計」

【国籍別】



【在留資格別】



取組前の現状・課題

【現状】 (県の基本方針策定にあたり関係主体等へアンケート、ヒアリングを実施)

市町村 市町村国際交流協会	18市町村に日本語教室がない (33市町村すべてに外国人県民が暮らしている) 大半の市町村で日本語教育関連の予算なし
地域の日本語教室	教室の多くが無料で、ボランティアによる運営・指導 若い教育人材が少ない。家庭の事情で指導を中断する人もあり
外国人県民	学習ニーズは、会話の練習、日本語能力試験対策など様々 居住地域に教室がない、身近に教えてくれる人がいない等の声 交通事情や気象状況により学習を中断する人もあり
事業所	外国人労働者に対する日本語教育の実施状況は様々 日本語能力不足による業務への影響は様々 教材探しなど日本語学習への支援を求める声
有識者からの意見	本県は外国人が散在し、他県の集住地域とは異なる特徴に留意 日本語教育人材の役割分担の明確化が必要

取組前の現状・課題

【課題】

(1) 日本語学習機会の提供・拡充に関する課題

- ・日本語学習環境がない外国人県民等に対して、**学習機会の提供**が必要
- ・交通事情、気象状況、生活や仕事の都合などにより**日本語教室へ通えない外国人県民等への対応**が必要
- ・学習希望者の**多様なニーズやレベルに対応した学習機会の提供**が必要

(2) 日本語教育人材の確保・育成に関する課題

- ・**教育人材を確保し、適切な役割分担のもとで定着促進**が必要
- ・地域の日本語教室を担う**教育人材に対する相談・支援体制の確保**が必要
- ・学習者の**多様なニーズやレベルに対応するための資質向上**が必要

(3) 県民の理解と増進に関する課題

- ・受け入れる側も、**多文化共生理念の普及**が必要
- ・外国人労働者への日本語教育の提供に当たり、**事業者の協力**が必要
- ・生活情報の周知、地域行事への参加に**事業者の理解や配慮**が必要

(4) 日本語学習に関する情報発信に関する課題

- ・事業者や日本語教室、市町村、市町村国際交流協会等に、**日本語教室の情報や教材、活用可能な補助制度等に関する情報の提供**が必要

岩手県における日本語教育の推進に関する基本的な方針（令和4年3月）

(<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kokusai/tabunka/1050766.html>)

施策の方向性

外国人県民等が仕事や生活で不便を感じることなく、地域で生き生きと暮らしていくためには日本語を習得できるようにすることが重要であり、併せて、地域においては多文化共生への理解を深めることが求められる。

県、市町村、国際交流協会、地域の日本語教室、事業者等の各主体が連携しながら、本県で暮らすすべての外国人県民等を対象とし、すべて人に共通する「生活者」の側面に着目した日本語教育を推進する。

【目指す姿】

希望する人、必要なすべての外国人県民等が日本語を学ぶことができ、
地域で支え合い、共に発展する岩手

【外国人県民向けキャッチフレーズ】

いっしょに^{まな}学ぼう日本語、いっしょに^く暮らそう^{いわてけん}岩手県

事業の目的・目標

【基本方針における4つの取組の方向】

(1) 日本語学習機会の提供・拡充

日本語学習を希望する外国人県民等が環境や能力に応じて学習できるよう、日本語学習機会の提供・拡充に取り組みます。

(2) 教育人材の確保・育成

効果的かつ安定的な日本語教育を継続して提供できるよう、日本語教育を担う人材の確保・育成に取り組みます。

(3) 県民の理解と関心の増進

外国人県民等が地域社会の一員として共生できるよう、日本語教育を含む多文化共生理念の普及啓発に取り組みます。

(4) 日本語学習に関する情報発信

外国人県民等や日本語教育に携わる関係者が必要な情報にアクセスできるよう、情報の収集と発信に取り組みます。

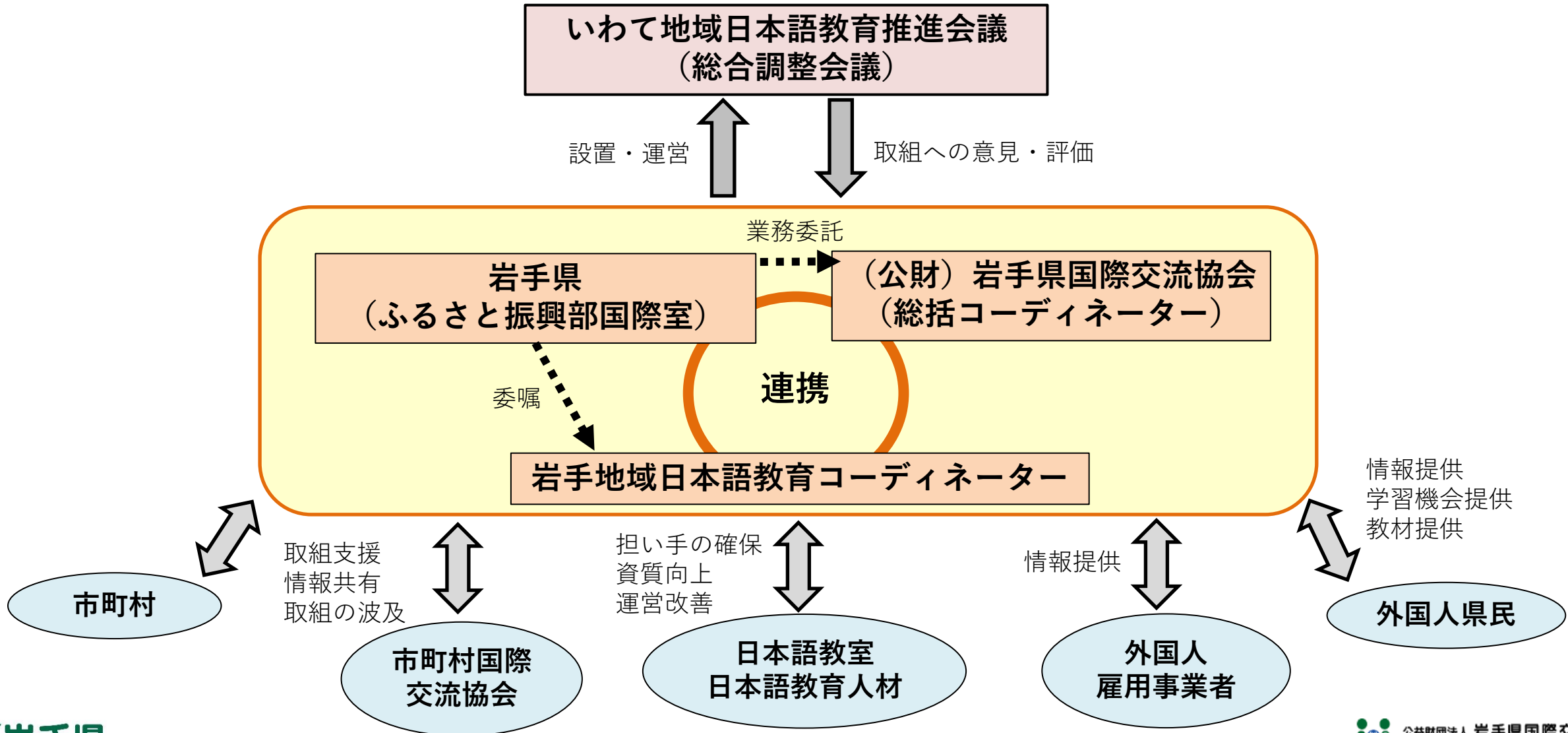
【令和4年度の目標】

本県の基本的な方針に基づいて**教育人材の確保・育成**に取り組みつつ、**事業者への啓発活動**にも力を入れ、**外国人労働者に対する日本語教育の取組の促進**に努める。

オンラインでの日本語講座を開催し、学習機会を提供しつつ、学習ニーズの把握、オンラインでの学習におけるノウハウの蓄積に努める。

実施体制

- ・ 県から県国際交流協会へ地域日本語教育推進業務を委託（総括コーディネーター配置を含む）
- ・ 県から日本語教育の有識者3名に「岩手地域日本語教育コーディネーター」を委嘱



オンライン日本語教室の実施背景

(2) 教育人材の確保・育成

効果的かつ安定的な日本語教育を継続して提供できるよう、日本語教育を担う人材の確保・育成に取り組みます。

ア 教室の性格に応じた教育人材の役割の明確化

- ・ 専門的人材の日本語教室巡回訪問による助言や運営支援
- ・ 地域における日本語教育推進モデルの提案 等

『岩手県における日本語教育の推進に関する基本的な方針』の概要について

「岩手県における日本語教育の推進に関する基本的な方針」

地域日本語教室での“対話中心の活動”を推進するための取組み

- ・ 『“いわて”をはなそう』の作成 (R2)
- ・ 『“いわて”をはなそう』等を活用した教室活動のための研修会の実施



「いわて」をはなそう」のご紹介

● 作成の背景

文化庁が日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでの暮らし」を公開

→ ちょっと都会目線だった…

例) 駅：チャージって？ / 無人駅はどうすれば？

→ 地元事情も知りたい！

例) 産直って安い！ / 雪の日は注意することがいっぱい…

▶ 「つなひろ」では扱われない“岩手の生活場面”に焦点を当て、「岩手」について学びながら日本語を習得できるよう支援する日本語学習コンテンツを作成

● 対象者

- ・ 岩手で生活する外国人 (A1～B1レベル)
- ・ 岩手で生活する外国人をサポートする人 (日本語学習支援者)

● 特徴

- ・ 独学ではなく、学習者とサポートする人が一緒に話しながら使う会話教材
- ・ 行動ベース (生活場面) でトピックを立てている



<https://www.iwate-resource-bank.jp/nihongo/>

「いわて”をはなそう」の内容

◎岩手の暮らしに関わる6つのテーマについて、学習者と支援者が話しながら日本語、地域事情を学んだり、学習者の出身地の事情を聞いたりします

★ポイント **CEFR A1～B1に対応**
 同じテーマでもレベルごとの学習内容(活動例)を用意

テーマ

ふゆ し 冬を知ろう

寒さとは？
 あたた 暖かく過ごす
 き 気をつけよう ① 冬の道
 き 気をつけよう ② 乾燥・結露
 き 気をつけよう ③ 水が出ない

いどう 移動

ふゆ た 冬の食べ物

ふゆ た 冬の食べ物

ふゆ あそ 冬の遊び

つかさぎ釣り
 こおり 氷のスポーツ
 ゆき 雪のスポーツ
 ゆき 雪を楽しむ
 ふゆ 冬のイベント

ちいせしよほう 地域情報・災害

クイズ

クイズ

Q.1
 いわて いねまき ところ
 岩手で 一番寒い 所は どこですか。

あやこし 盛岡市 あやこし 宮古市 いねまき 一宮市

Q.2
 こおりの 道は、どのように 歩きますか。

はやく 速く 歩きます。 ゆっくり 歩きます。 つま先で 歩きます。

Q.3
 スタッドレスタイヤは、どうして すべりにくいですか。

ゴムが 柔らかくて、タイヤが 太いからです ゴムが 柔らかくて、タイヤの 溝が 深いからです ゴムが 硬くて、タイヤが 滑いからです

単語

Từ vựng				
音声 (おんせい)	にほんご	ひらがな	Roma-ji (ローマ字)	Thính Việt (ベトナム語)
	凍る	こおる	kooru	đông
	凍結	とうけつ	tooketsu	đông cứng
	圧雪	あつせつ	assetsu	ép tuyết
	雪	ゆき	yuki	tuyết
	みぞれ	みぞれ	mizore	mưa tuyết
	氷	こおり	koori	đá
	路面	ろめん	romen	mặt đường

活動例

A1

A1 はな話しましょう

- あなたの国は、雪がふりますか。
- あなたの国に、冬がありますか。
- あなたの国の冬の温度は何度ですか。

活動例を提示することで
 行動ベースの活動につなげる工夫

進め方のコツ

- メイン画像を見ながら、岩手の冬を感じ取ってもらいましょう。
- 冷蔵庫の中の温度を見て、寒さを感じ取ってもらいましょう。
- 温度の言い方、天気マークを覚えてもらうと便利です。
- 学習者のレベルによって話を広げてください。

岩手県における地域日本語教育の現状

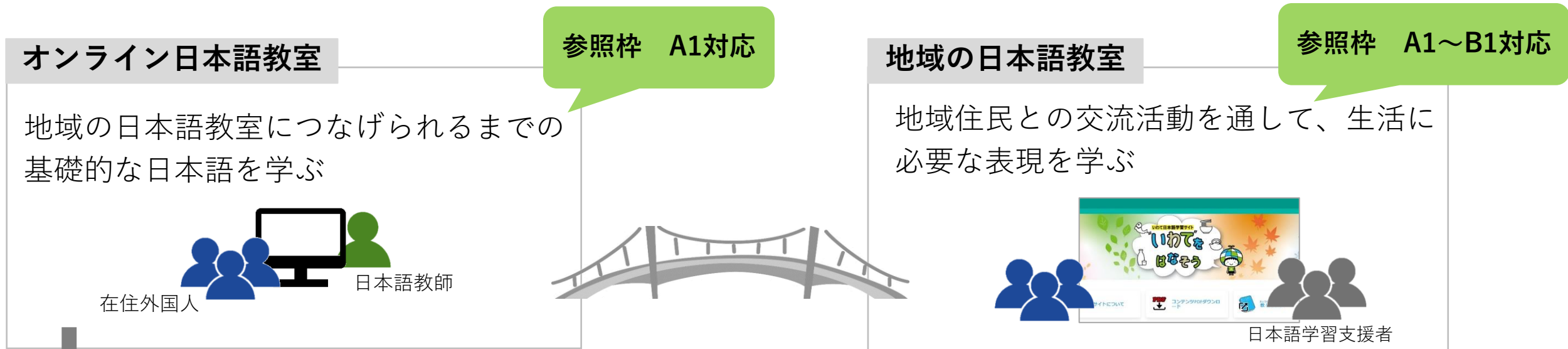
- ☹️ 地域の日本語教室にA1レベルの在住外国人が参加した際に、日本語学習支援者が対応できない
 - “日本語を教える” 役割ではない日本語学習支援者が、日本語教育を行っている
 - 日本語学習支援者の負担や、支援者不足につながっている
- ☹️ 居住地域に日本語教室がない、交通事情や気象状況によって日本語教室に通えない在住外国人もいる

基礎日本語教育を行うオンライン日本語教室を実施

- 😊 基礎日本語教育を日本語教師が行うことによって、効果的・効率的に日本語を学ぶことができる
 - この講座で基礎的な日本語を習得した後は、地域の日本語教室での地域住民との交流活動にもつなげられる【基礎日本語教育：Can doベース、交流活動：活動ベース】
- 😊 オンライン環境の活用により、アクセスしやすい学習機会の提供ができる
 - 短期的に在住外国人のニーズに応えることができる
(日本語教室空白地域における日本語教室開設サポートと並行した事業展開)

オンライン日本語教室の目的

- ✓ 地域日本語教室に在住外国人が参加しやすい環境を作ること
 - ✓ 地域日本語教室の日本語学習支援者が活動しやすい環境を作ること
- 地域日本語教室の活性化につなげる



岩手地域日本語教育コーディネーターによる オンライン日本語教室カリキュラムの作成・実施

- ・ 「"いわて"をはなそう」の作成メンバー
 - ・ 地域日本語教室に合わせたカリキュラム作成・実施が必要
- R3～ 県内の日本語教室を訪問し、各教室の状況把握や相談対応を実施
地域日本語教室の実情や地域性を把握している

オンライン日本語教室の概要

● 授業回数等

- ・ 2022年9月から2023年3月まで
- ・ 毎週水曜日、2クラス開講
- ①18:00～18:55
- ②19:00～19:55 (①と②の内容は同じ)
- ・ 全25コマ (授業24コマ + 日本語学習支援者との交流1コマ)
- ・ Zoomを使用

● 学習者の属性と人数

- ・ 対象は、県内在住外国人で、ひらがな (できればカタカナも) が読める人
- ・ 技能実習生、ALT、日本人の配偶者など
- ・ 常時参加しているのは、①が4名、②が8名ほど



オンライン にほんご きょうしつ

日本語の基礎的な文の作り方や、ことば・表現を学びます!

いつ 毎週水曜日 全25回 【始まります】2022年 9月 7日
※12月28日と1月4日は休み 【終わります】2023年 3月 8日

なんじ 午後 7:00 ~ 8:00

どこ オンライン(Zoomミーティング)

だれ ・岩手に住んでいる人
・ひらがな、カタカナを読むことができる人
※申込みが多い場合は、選考します。
※企業等からの団体での申し込みについては別途ご相談ください。

いくら ￥0 (お金はかかりません)

申込み QRコードから申し込んでください。 <https://forms.gle/nsJRxG1ZDyf3fpoC6>

問合せ 岩手県国際交流協会
〒019-654-8900 nihongo@iwate-ia.or.jp ☎ 019-654-8900

文化庁 令和4年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用
主催：岩手県(受託事業者：(公財)岩手県国際交流協会)

公益財団法人 岩手県国際交流協会 Iwate International Association
〒020-0045 盛岡市盛岡駅前西通1-7-1 アイーナ5階国際交流センター
TEL: 019-654-8900 URL: <https://iwate-ia.or.jp>

● 内容

- ・ 地域での生活で想定される日本語能力を身に付ける
- ・ 各地の日本語教室で、日本語学習支援者との教室活動に参加するために求められる日本語能力を身に付ける

● 特徴

- ・ 遠隔地に在住、公共交通機関がない地域でも学べるようオンラインで提供
- ・ 岩手での生活に必要な場面（ときには話題）を設定
- ・ 各課にCan doとモデル会話を設定
（モデル会話は、岩手での生活日本語を意識して作成。登場人物は技能実習生のイメージ）
- ・ 各地の日本語教室でコミュニケーションをする、相手の言っていることを理解するために必要と思われる項目を扱う

カリキュラム・教材開発の流れ（概要）

- ① ゴールの設定
- ② Can doの設定
- ③ 必要な学習項目の洗い出し
- ④ カリキュラムの完成
- ⑤ モデル会話の作成
- ⑥ 各課教案の作成
- ⑦ 復習用モデル会話のYouTube動画（音声のみ）の制作

カリキュラム・教材開発の流れ（詳細）

① ゴールの設定

- 全体のゴール：A1レベルの学習者が、各地の日本語教室に参加した際に、日本語学習支援者と会話するための**基礎的な日本語能力**を身につける
- 各課のゴール：モデル会話を参考に、**Can doの達成を目指す**とともに**会話場面での運用**につなげる

② Can doの設定

- 『JF 生活日本語Can do』、『「いろどり」目標 Can do』等を参考に設定
- 当初は既存Can doを使用することも考えたが、**最終的に独自のCan do**を作成

③ 必要な学習項目の洗い出し

- 『いろどり 生活の日本語』、『わたしをつたえるにほんご（CINGA）』、『にほんごこれだけ！』、『みんなの日本語』等を参考に洗い出し

④ カリキュラムの完成

→ Can doと学習項目を全24コマで扱う

⑤ モデル会話の作成

→ できるだけ岩手での生活場面や地名、ことば等を取り入れた会話を作成

⑥ 各課教案の作成

⑦ YouTube動画（音声のみ）の制作

→ 宿題としてのシャドーイング練習用に制作

19. かきを たべる ことができます

● Can do

自分ができることとできないことについて、
伝えることができる。

● 学習項目

- ・ 辞書形
- ・ 辞書形＋ことができます
- ・ 名詞＋ができます

● モデル会話

- B：Aさんはかきを たべる ことができますか。
A：はい、たべる ことができますよ。
B：りくぜんたかたで おいしい かきを たべる
ことができますよ。
こんど いっしょに いきませんか。
A：いいですね。いきましょう。

19 かきを たべる ことができます。



○ かわ
B：Aさんは かきを たべる ことができますか。
A：はい、たべる ことができますよ。
B：りくぜんたかたで おいしい かきを たべる ことができますよ。
こんど いっしょに いきませんか。
A：いいですね。いきましょう。

○ あたらしい ことば

・ 箱	・ 運	・ ダンス	・ ピアノ
・ ギター	・ かき	・ 陸前高田	

〈使用テキストの例〉

期待される成果

● 事業単位

- ・ 受講者が各地の日本語教室に参加し、日本語学習支援者との交流活動をとおして、**日本語や地域について学んだり、交流したり**することができるようになる
- ・ オンラインを活用したことにより、**遠隔地に在住、公共交通機関がない地域や日本語教室がない地域に在住している外国人も日本語学習の機会が得られる**
(申込者のうち、約4割が日本語教室空白地域から申込み)

● 授業単位

- ・ モデル会話を参考に、**会話能力を育成する**
- ・ 各回のCan doを達成することで、日本語教室や生活の場で使うことができる
コミュニケーション能力を獲得する

● 授業について

- ・ 実際の申込者はA2～B1レベルが多く、さらに上級レベルの学習者もいるため、受入れ等の対応が難しい
- ・ Can do達成を念頭に置いていることから、文字の扱い方に苦慮しており、学習者には受講しづらい → 今後、テキストや教材の改良が必要（「地域における日本語教育の在り方について」に文字の扱い方あり）
- ・ 課題をやってくる学習者が少ない

● オンライン活用について

- ・ 対面教室に比べ、学習者同士のコミュニケーションや交流が少ない
- ・ 学習者のインターネット環境あるいはデバイスの状態等によって、ブレイクアウトルーム（Zoom）に入れられない等の問題が生じる場合があり、活動に制限が出る
- ・ クラスの規模について、1画面の中で学習者全員の様子を確認するには、10名程度が限界